

1 基本情報

- (1) 国名：タンザニア連合共和国（以下、「タンザニア」という。）
- (2) 事業地域名：ダルエスサラーム（人口：約 770 万人）及びザンジバル・ウングジャ島（人口約 135 万人）
- (3) 案件名：ダルエスサラーム空域航空交通管制機材整備計画
(The Project for the Improvement of Air Traffic Control Equipment in the Dar es Salaam Airspace)
- (4) 計画概要：ダルエスサラーム国際空港及びザンジバル国際空港において、進入管制の統合及び航空交通管制機材の整備を行うことにより、航空交通管制官の効率的運用、航空交通の安全性及び運航効率の向上を図り、もって安全かつ円滑な航空交通の実現に寄与する。

2 計画の背景と必要性**(1) 本計画を実施する外交的意義**

我が国とタンザニアは、1961 年の外交関係樹立以来、友好協力関係を発展させてきており、国連等の国際場裡においても協力関係を維持している。ダルエスサラーム国際空港は、インド洋と東部・中部アフリカ内陸国を結ぶ中央回廊の要であるため、本計画により、当該空域の航空交通管制の安全性・効率性を向上させることは、航空交通におけるアフリカ地域の連結性の一層の強化に資する。また、我が国は TICAD 9 において「質の高いインフラを整備し、地域の連結性を強化する」ことを表明しており、自由で開かれたインド太平洋（FOIP）の新たなプランにおいても「空の安全利用の推進」を主要な柱に掲げていることから、中央回廊の機能強化を通じて地域統合と国際物流の円滑化に寄与する本計画は、これらの方針の具現化に資するものである。

また、我が国では日本製の航空管制機材・システムの海外展開を推進しており、本案件で日本製の機材・システムを導入し航空管制の運用を改善することにより、日本企業にとって当該地域での活用実績が蓄積され、今後のアフリカにおける展開に資する実績づくりとなるとともに、アフリカにおける日本の「質の高いインフラ」のプレゼンスを高めることが期待される。

(2) タンザニアにおける運輸（航空）セクターの課題及び本計画の位置付け

タンザニアは、「タンザニア開発ビジョン 2050（Tanzania Development Vision 2050。以下、「TDV2050」という。）」において、知識基盤型で競争力のある経済への転換及び統合物流システムの高度化を国家目標として掲げており、航空分野は国内外の人流・物流を支える基幹インフラとして位置付けられている。また、TDV2050 では、安全かつ効率的な航空輸送サービスの提供を重視している。こうした中、航空機導入や空港整備等により供給能力を近年拡大しており、航空交通量及び航空貨

物取扱量は継続的な増加傾向にある。

一方、ダルエスサラーム国際空港及びザンジバル国際空港では、航空交通量の増加に伴い航空交通管制官一人当たりの業務負荷が増大している。また、ザンジバル周辺空域では低高度空域においてダルエスサラーム設置レーダーの監視能力に限界があり、空域全体として効率的な進入管制サービスの提供が十分に行われていない。これらの課題は、航空交通の安全性及び運航効率の向上を妨げ、TDV2050 が掲げる安全で効率的な統合物流の実現を阻害する要因となっている。

「ダルエスサラーム空域航空交通管制機材整備計画」（以下、「本計画」という。）は、ダルエスサラーム及びザンジバル両国際空港の進入管制機能の統合並びに統合用進入管制運用機材、デジタルタワー及びマルチラテレーションシステム（MLAT）の整備を通じて、航空交通の安全性及び運航効率の向上を図るものであり、TDV2050 の掲げる航空分野の高度化に資するものとして位置付けられる。

3 計画概要

* 協力準備調査の結果、変更される可能性あり。

（１）計画内容

- ア 施設・機材：統合用進入管制運用卓 1 式、デジタルタワー（カメラシステム及び運用卓） 1 式、MLAT システム（現地監視システム及び情報処理システム） 1 式
- イ コンサルティング・サービス／ソフトコンポーネント：詳細設計、入札補助、施工・調達監理、ソフトコンポーネントとして機材の操作及び維持管理に係る技術指導等。

（２）期待される開発効果

- ・ ザンジバル管制塔で取扱う進入管制提供回数（回数）が減少する（基準値：確認中→目標値：0）。
- ・ ザンジバル進入管制時の航空機間の最低距離（NM）が短くなる（基準値：10→目標値：5）。
- ・ 低視程時（視程 5 km 以下）での運航継続率（%）が向上する（基準値：90→目標値：95）。
- ・ 航空機運航の安全性が向上する。
- ・ 航空交通管制官の効率的配置及び運用が実現する。

（３）他ドナーの動向・ドナー連携の可能性

- ・ アフリカ開発銀行は、ドドマにおけるムサラト新国際空港整備事業を支援中。
- ・ 英国輸出信用保証局は、ザンジバル・ペンバ空港及び同アクセス道路拡張事業を支援中。

（４）被援助国側実施機関：タンザニア民間航空局（Tanzania Civil Aviation Authority: TCAA）。なお、一部空港設備についてはタンザニア空港公社（Tanzania Airport Authority: TAA）及びザンジバル空港公社（Zanzibar Airport Authority: ZAA）が管理する。

（５）実施体制、運営・維持管理体制：TCAA はタンザニア全土の民間航空当局であり、TAA 及び ZAA はそれぞれ本土及びザンジバルの空港運営・保守を担う。3 機

関はいずれも豊富な航空業務経験を有する。また、本計画にかかる維持管理費用は協力準備調査にて確認する。

(6) その他特記事項

- ・ 環境社会配慮カテゴリ分類：B
- ・ ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

4 本計画に適用する類似案件の教訓

平成 27 年度対キルギス共和国無償資金協力「マナス国際空港機材整備計画」（事後評価：2021 年度）では、マナス空港の関係者が本事業の前に研修へ参加し、実際の機材の運用状況を学ぶ機会を得たことが実用的であったと高く評価されているところ、本計画においては、JICA の実施する技術協力や国交省の実施する研修において、空港関係者が機材の運用状況について学ぶ機会を提供することを検討予定。

以 上

〔別添資料〕地図 タンザニア「ダルエスサラーム空域航空交通管制機材整備計画」

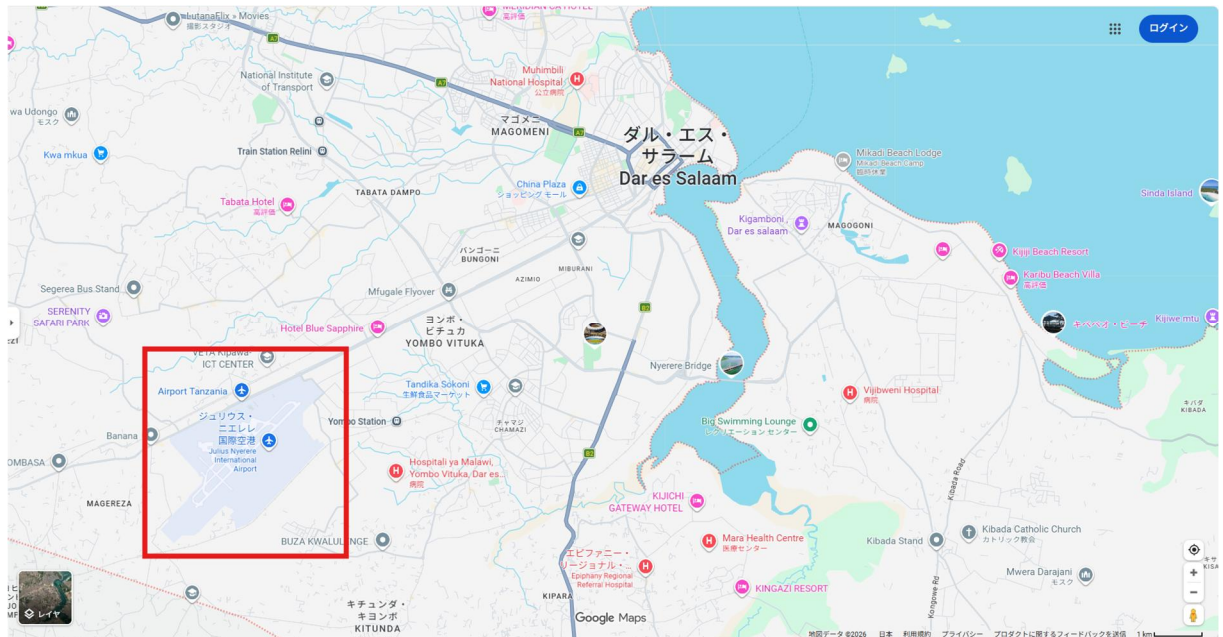
〔別添資料〕写真 タンザニア「ダルエスサラーム空域航空交通管制機材整備計画」

地図 タンザニア「ダルエスサラーム空域航空交通管制機材整備計画」



ダルエスサラーム・ザンジバル位置図

出典： United Nations (United Republic of Tanzania | Geospatial, location data for a better world) より JICA 作成



ダルエスサラーム国際空港位置図

出典：Google Maps（地図データ©2026 Google）より JICA 作成



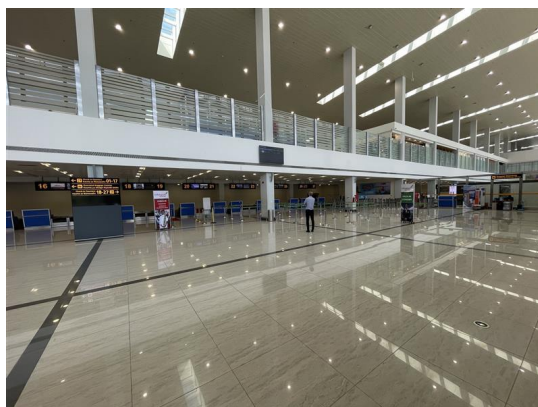
ザンジバル国際空港位置図

出典：Google Maps（地図データ©2026 Google）より JICA 作成

写真 タンザニア「ダルエスサラーム空域航空交通管制機材整備計画」



①ダルエスサラーム空港 管制塔



②ザンジバル空港 旅客ターミナル



③ザンジバル空港 管制塔